

くにたちオペラ『あの町は今日もお祭り』 あらすじ

天満宮のお祭りの夜。遠くから聞こえてくるお囃子。「でんでこ でこでん」。その匂いに誘われ、祭りの夜にひとり迷い込んだクーニーが出会ったのは、この地に大洪水と豊穡をもたらす金魚。金魚が歌う「君の探している人は 百年前に死んでしまったかもしれない 百年後に生まれてくるのかもしれない」。縄文から現代まで、多和田葉子が描く国立の精神地図が、くにたちの境界を超えて世界の今を見せる。

募集パート：テノール、バスまたはバリトン、カウンターテナー 各1名

募集役：テノール／旅の男・金魚（5人1役 ※ソプラノ、メゾソプラノ、テノール、バスまたはバリトン、カウンターテナーのアンサンブルになります。以下同）

バスまたはバリトン／祖母・金魚（5人1役）

カウンターテナー／ターチ・金魚（5人1役）

応募資格：1) プロの歌手、またはプロを目指していること

2) 前述のワークショップおよび練習に参加できること

3) 2021年4月1日時点で音楽大学を卒業している、もしくは同等の実力を有すること。

4) 体力に自信があること

5) 参加アーティストやスタッフ、市民参加者と円滑にコミュニケーションがとれること

6) 外国籍者の場合、日本語が理解できること。およびワークショップ～練習日程～本番期間中の日本国内滞在が可能なこと。

第一次審査：別紙申込書による書類選考

※選考通過者のみに、オーディション日時を2月2日（火）までに通知書面を投函します

第二次審査：オーディション 日程 2021年2月14日（日）・15（月）のいずれか30分程度

会場 くにたち市民芸術小ホール 地下スタジオ

〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-48-1

審査員：平野一郎（作曲家）・川口智子（演出家）・北村成美（振付家）・吉川真澄（ソプラノ、ヴォーカルアドバイザー）

オーディション課題：1) 歌唱：課題曲『りゅうのこもりうた』（平野一郎作曲）

※第一次審査通過者に楽譜を郵送します。オーディション後要返却。

2) 歌唱：自由曲（5分以内）

3) 歌唱：新曲視唱（本オペラから各声部向けに抜粋した断片課題）

※オーディション当日に提示します。

4) 演技：※第一次審査通過者に「セリフ」を郵送します。

審査料：第一次審査（書類選考）無料 / 第二次審査 2,000円 ※第二次審査当日にご持参ください

応募方法：受付はメールのみで行います。当ホールHPから申込書（excel）をダウンロードし必要事項を入力・写真（上半身サイズ）データ添付の上お送りください。

HP <https://kuzaidan.or.jp/hall/> メール entry-hall@kuzaidan.or.jp 件名「オペラソリスト応募」

申し込み締め切り：1月18日（月） 15時必着

お問合せ：くにたち市民芸術小ホール 〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-48-1 担当・斉藤かおり

Tel. 042-574-1515 E-mail: saito@kuzaidan.or.jp

注意事項等

- ・提出いただいた応募書類は返却いたしません。
- ・審査、選考理由内容についてのお問い合わせには一切ご対応いたしかねます。
- ・小道具は、各自で持参したもののみ使用してもかまいません。

- ・ピアノ伴奏者は各自で同伴してください。主催者ではピアニストの手配はいたしません。
- ・審査中、審査員が演奏等を途中で止めることがあります。
- ・選考のために、審査中は録画・撮影を行う可能性があります。
- ・今回の選考で該当者なしの場合、主催者が別途人選する場合があります。
- ・公演出演者には所定の出演料が支払われます。
- ・オーディションおよび稽古・本番時の交通費・滞在費はご負担ください。
- ・公演PRにご協力いただく場合があります。
- ・ご出演の際は、当事業にご理解・ご協力をお願いします。
- ・個人情報とは当該事業において使用することがありますが、ご本人の同意がない限り第三者には提供しません。

審査員 プロフィール:

平野 一郎 (ひらの いちろう) ・作曲家

丹後國宮津出身。京都市立芸術大学大学院修了。1996年より各地の祭礼とその音楽の踏査を始動。2001年より作曲活動を本格開始、京都を拠点に日本の風土や伝承に根差した創作を展開。日本交響楽振興財団作曲賞最上位入選・日本財団特別奨励賞、京都市芸術新人賞、青山音楽賞、藤堂音楽賞、京都府文化賞奨励賞など受賞、ISCM 世界音楽の日々2008 入選。11年演奏家・美術家と〈音色工房〉結成、モノオペラ「邪宗門」作曲・上演。以後「胡絃乱聲」（国立劇場）「とこよのはる」（森の会）「八幡大縁起」（やわた市民音楽祭）「二重協奏曲〈星巡ノ夜〉」（館野泉左手の文庫）「鱗宮交響曲」（芦屋交響楽団）等委嘱作品多数。17年～出雲芸術アカデミー／コンポーザー・イン・レジデンス拝命、「出雲の春音楽祭」にて「連作交響神楽」（全九部作）進行中。19年NHK8K《落慶～奈良・興福寺》音楽制作。ほか女声独唱曲「四季の四部作」（吉川真澄委嘱）を軸とする京都芸術センター主催“四季の遊び”、大東市サートイホール共催“時ノ祀リ二〇一九”など企画・監修も多く手掛ける。コロナ禍の現在ストーリーミングにて“時ノ祀リ二〇二〇臨時祭”を展開中。

川口 智子 (かわぐち ともこ) ・演出家

2008年より演出活動を開始し、海外劇作家の翻訳上演、アジアのアーティストとの協働作業、音楽・ダンス・伝統芸能等ジャンルを超えた創作を多数展開。イギリスの劇作家サラ・ケインの戯曲上演に長年取り組み、代表作はコンテンポラリー・パンク・オペラ『4.48 PSYCHOSIS』（2020年初演）。そのほかの演出作品に市民参加劇『動物たちのバベル』（作：多和田葉子、主催：くにたち市民芸術小ホール、2018年）など。東京学芸大学非常勤講師、立教大学大学院兼任講師。 www.tomococafe.com

北村 成美 (きたむら しげみ) ・ダンサー・振付家

通称、なにわのコリオグラファーしげやん。6歳よりバレエを始め、1992年英国ラバンセンターにて振付を学ぶ。「生きる喜びと痛みを謳歌するたくましいダンス」をモットーに、国内外でのソロダンス作品上演を主軸に、日本各地で市民参加による大型コミュニティダンス作品を発表。劇場はもちろん、小・中・高校・特別支援学校、福祉施設、ショッピングモール、ご家庭の居間、廃屋、電車、海、山、いつでもどこでもどなたとでも踊ることをライフワークとしている。ミュージカルや演劇など舞台作品の振付・演出、音楽家や美術家との共同製作、CM振付や映像作品など数多く取り組む。平成15年度大阪舞台芸術新人賞、平成22年度滋賀県文化奨励賞を受賞。一般財団法人地域創造ダンス活性化支援事業登録アーティスト。

吉川 真澄 (よしかわ ますみ) ・声楽家

岸和田生まれ。桐朋学園大学研究科声楽専攻修了。文化庁国内芸術インターンシップ研修生。オペラ「ポポイ」、モノオペラ「邪宗門」等多くの作品の初演を務める。〈DUO うたほぎ〉〈デュオ ORIGAMI〉を結成し、演奏機会の少ない作品や日本語の歌を歌う事に力を注いでいる。コロナ禍においてアカペラ、朗読、弾き歌いで構成される“ひとりっきりのコンサート”プロジェクトを始動。CDは「Pop Song」「うたほぎ vol.1～3」「四季の四部作」等。松方音楽大賞受賞。佐治敬三賞受賞。東京混声合唱団レジデントメンバー。エル・システマジャパン東京ホワイトハンドコーラス指導者。